

『農林水産 研究開発レポート』 の作成及び公表の進め方について(案)

平成 13 年 5 月
技術政策課

1 趣旨

農林水産技術会議の政策推進機能と情報発信機能の強化を図る観点から、昨今の行政ニーズが特に高く、政策的色彩の濃い研究開発課題の取り組み状況について、わかりやすく取りまとめ、時宜を得た形で広報することが重要である。

このような考え方に沿って、毎年度数課題のテーマを設定し、各テーマごとに、研究開発の背景・経緯、研究開発の内容と成果、解決すべき研究課題と今後の取組方向等の内容を平易に解説したレポートを作成・公表する（作成・公表主体は農林水産技術会議事務局）。

2 概要（仕組み）

(1) テーマ案の選定

毎年 3 月（本年は 5 月）に技術政策課が、関係課と調整の上、年度計画案を作成し、農林水産技術会議の了承を得る。年度計画では、四半期ごとのテーマ案を選定する。（なお、テーマ案については必要に応じて、農林水産技術会議の了承を得て変更。）

平成 13 年度テーマ案については別紙 1 参照

(2) レポートの作成

技術政策課が、テーマに係る担当研究開発企画官及び担当課に作成を依頼の上、レポートを取りまとめ、農林水産技術会議で検討し、了承を得る。

レポートの分量は、A4 版 10 枚（20 頁）程度とし、図表や写真を挿入することにより、ビジュアルでわかりやすい内容となるようにする。

レポートの構成内容案については別紙 2 参照

(3) レポートの公表・配布

農林水産技術会議における検討を経た後、国、都道府県（行政、試験研究、普及）、独立行政法人試験研究機関、大学、民間企業団体、消費者団体、マスコミ等に対して、印刷物にして配布する。

なお、配布部数については、約 4,000 部を想定。

また、農林水産技術会議ホームページに内容を掲載する。

平成 13 年度テーマ(案)

発刊期 (農林水産技術会議 への報告時期)	テーマ案
第 2 四半期 (9 月)	・ 国産麦の品種育成とその利用
第 3 四半期 (1 1 月)	・ イネゲノム研究の推進
第 4 四半期 (3 月)	・ 有機性資源のリサイクル技術の高度化

注：平成 13 年度は第 2 四半期からスタート。

(参考)

平成 14 年度以降のテーマ案の例

テーマ案
・ 遺伝子組換え技術の安全性 (環境・生態系への影響)
・ 低コスト野菜生産に向けた機械化・省力化
・ 農業・農村の有する多面的機能に関する研究
・ バイオマスエネルギー利用技術の開発
・ 機能性食品の開発
・ 途上国における持続的農林水産業発展のための研究開発
・ 研究開発システムの改革 (若手研究者の育成等)
・ 農林水産研究開発 I T 戦略

レポートの構成内容(案)

〔構成〕

1 研究開発の背景・経緯

〔主要ポイント〕

- ・行政、農業生産、消費等の動向及びニーズ
- ・研究開発がもたらす新たな可能性
- ・我が国の研究開発の取組状況
- ・海外における研究開発の取組状況 等

2 研究開発の内容と成果

〔主要ポイント〕

- ・研究開発の推進体制(産・官・学の連携等)
- ・主要なプロジェクト研究等の研究内容と具体的な成果
- ・関連する研究機関における主要な研究成果 等

3 解決すべき研究課題と今後の取組方向

〔主要ポイント〕

- ・今後解決すべき主要な研究課題
- ・主要な研究課題ごとの短期的・中長期的な達成目標
- ・研究開発推進に必要な方策 等

注：課題テーマごとに全ての主要ポイント事項について網羅する必要はなく、記述の重点の置き方も異なる。

